

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600150
法人名	医療法人 恵愛会
事業所名	グループホーム ゆっつら〜と
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3 (電話) 0954-22-0070

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月27日	評価確定日	平成 20年5月12日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石橋リハビリテーション病院 寺尾歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とする、2ユニットのグループホームである。近くには、住宅やスーパーがあるものの、自然の多い静かな環境である。お祭りや運動会などの地域行事への積極的な参加がなされ、野菜を持って来られるなど、交流が多く図られている。日中は家族や地域住民が出入りしやすいよう、門扉も開放しており、「地域」の中に溶け込んだホームである。入居者はそれぞれ役割を持ち、家庭的な雰囲気の中、職員と互いに支え合い一日を過ごされている。また、職員同士の関係も良く、自然な笑顔が多く見られたことが印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえ、改善項目について情報収集をする等、取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者を中心に、A棟・B棟それぞれ職員全体で取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3ヶ月に1回の頻度で開催されている。家族には順番で参加していただき、経過や予定の報告、意見交換の場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱が設けられている。家族との会話の中で意見があった場合は、職員で共有し、検討結果を家族に報告している。家族会の開催もされている。今後は、ホーム便りなどを作り、家族等への定期的な報告を行うとともに、職員の異動やホーム全体の様子についての報告も行うことが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(お祭り・運動会など)に参加している。近所の方が野菜を持って来られたり、散歩中に会話をしたりと交流も図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた「人の和、心のふれあいを大切にします」という内容を含んだ、『ゆつつら〜と訓』を事業所独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有・実践のために、事務所内と玄関に理念を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し日々確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お祭り・運動会など)に参加をしている。近所の方が野菜をもって来られたり、散歩中に会話をしたりと、交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全体で行われている。また、前回の外部評価結果について、改善部分の検討もされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2〜3ヶ月に1回の頻度で開催され、サービス向上に活かされている。家族には順番で参加していただき、経過や予定の報告、意見交換、地域の行事等の情報収集の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回、運営推進会議の案内を市担当者に持参しており、その際に情報収集をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料の支払時や家族面会時に暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、必要に応じて個別に電話連絡もされている。	○	ホーム便りなどを作り、家族等への定期的な報告を行うとともに、職員の異動やホーム全体の様子についての報告も行うことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設けられている。家族との会話の中で意見があった場合は、職員で共有し、検討結果を家族に報告している。家族会の開催もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	A棟とB棟間での異動や法人内異動の場合は、入居者が混乱しないよう配慮しながら説明をされている。また、離職を最小限に抑えるために、働きやすい環境づくりに努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の院内研修会には参加できるよう、勤務の調整がされている。外部研修は受講料のホーム負担により、参加ができる。研修報告も報告書や資料の回覧により行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへの見学や職員との情報交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来られるよう、お願いをしている。急遽、入居になられた方には、家族の協力を得ながら徐々に馴染めるよう配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、料理や裁縫など入居者に教えていただくなど、支えあう関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や家族からの情報、日々の関わりの中から意向を把握している。意向や希望を引き出せるように、日常的な会話を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、作成担当者が入居者・家族・職員から意見を聞いて作成している。介護計画を関係者で検討する機会は設けられていない。	○	本人本位の介護計画を作成するためにも、本人、家族、必要な関係者が集まったの検討会議の開催や、その記録の整備が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しをしている。変化が生じた時には、その都度状況に応じた計画の作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎や付き添い、外出の希望、遠方に住む家族の日用品の買い物代行等、柔軟に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望された方には、引き続き受診ができるよう病院に協力をお願いしている。定期的な往診や何かあった場合は、すぐに病院と連絡がとられ、指示を受けられるような関係作りがなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、看取りの指針を作成中である。病状の急変等で重度化した場合は、家族やかかりつけ医と連絡を密にとっている。	○	職員全体での指針の把握やマニュアルの整備、看取りに関する定期的な家族の意向の把握など、今後の取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの性格に合った声かけや対応をしている。記録は、事務所内のロッカーにて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、起床や食事の時間、入浴など一人ひとりの希望やペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物には、入居者と一緒に行っている。旬の物や入居者の希望に合わせて献立を考え、準備や片付けも共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など、入居者の希望に沿うような声かけ・対応をしている。夏場は外出から戻られた際のシャワー浴にも応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや、お盆拭きなどの役割を持っていただく場面の提供をしている。大正琴やマッサージ、スポーツ番組の視聴など、一人ひとりの楽しみごとを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物や、散歩に声かけをし外出している。玄関前で日光浴など、なるべく外に出ていただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関には鍵をかけていない。入居者の動きが把握できるように工夫し、鍵をかけない努力をされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。地域の方々にもお願いをし、協力が得られるようにしている。連絡網や防火・防災管理規定も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、系列病院のものを参考にし、栄養バランスを考えている。水分は、お茶だけでなくスポーツ飲料やコーヒー・紅茶などでこまめにとっていただけるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や吹き抜け部分の光は、入居者に合わせてカーテンなどで調整されている。季節感を感じられるような、入居者手作りのカレンダーや小物が掲示されており、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた小物などを自由に持ち込めるようにしている。写真や絵を貼ることのできるボードも用意され、入居者の好みに合わせた居室作りができるよう、工夫されている。		